

2019年3月 チャクドラコロニーワークキャンプ



【活動日程】2019年3月1日～2019年3月21日

【活動場所】インドウエストベンガル州ボルドワン地方チャクドラハンセン病コロニー

【参加者（日本）】計7人

河合立希（名古屋大学2年）、石田瑞季（筑波大学4年）

末崎周（筑波大学1年）、木村志乃（筑波大学1年）

新井隆成（東京外国語大学1年）、小川喬也（筑波大学1年）

遠藤康平（名古屋大学2年）

【参加者（インド）】計4人

【活動報告】

≪ワークプロジェクト≫

《概要》今回のワークは前回のワークキャンプで最も倒壊の危険性があると判断された、ライ氏の家屋の新築を行った。現場を取り仕切る役割、砂運びなどの単純労働をすべて村人が行い、日本人キャンパーは単純労働の手伝いを行った。

《目的》ライ氏の生活の拠点であり、安心できる場所であるはずの家屋が倒壊寸前である状況を解決する。そのために、頑強で、安心して夜眠る事ができる、心のよりどころとして機能する家屋を提供する。

《成果》屋根は、ビニールシートで覆っていた状態からコンクリート製の屋根に、壁は亀裂が大きく入っていたが、より品質の良いレンガを使用して作り変えた。また床も泥のような現地で使われる素材から、コンクリート製に変えた。



Before)壁の様子



After)壁の様子



Before)窓の様子



After)窓の様子

《リサーチプロジェクト》

①次回ワークニーズ調査：

《概要》家屋および、公共物の修繕が必要な箇所の調査を行なった。

《目的》今後のワークキャンプにおける優先順位を決定するため。

《成果》それぞれの家屋における問題点を地図上に書き込み、優先順位を設定した。

②おさんぽPJ：

《概要》市場へ買い物に行く村人に複数回同行し、村人が村外ではどのように振る舞っているのか、また村人と村外の人々との関係性はどのようなものなのかを視察した。

《目的》前回キャンプで新キャンパーの中から、村人のもつ被差別感情、周囲からの差別感情を感じられなかったという感想があった。これは言語の壁もあるが、交流の機会が単純に少ないからではないかと考え、その機会の1つとなるように実

施した。また村人とキャンパーの交流を図ることも目的の一つとした。

《成果》私たちキャンパーが目視で確認した限りで明らかな差別・被差別問題はなかった。日本人と一緒にいたからということもあると考え、引き続き差別の現状把握を行なっていく。

③トイレ調査：

《概要》過去のキャンプで存在はするものの、使用不可とされていた、村の共用トイレについて、水を流すなどの実験を行い、トイレの機能点検を行った。これまでは村人からの話のみで使用の可否を判断していたが、今後村人とキャンパーともに使用ニーズがあったため、きちんとした調査をする必要があると判断し実施した。

《目的》今までのキャンプではキャンパーも村人と共に屋外排泄をしていた。その行為をできるだけなくしたいこと、また村人からのトイレ利用ニーズもあったため実施した。

《成果》トイレに破損箇所はなく、貯水タンクに水が貯まっていなかったことがトイレの水が流れないことの原因であった。そのため、すぐにトイレは使えるようになった。また村人がこのトイレを利用しなかった大きな理由は「男女のトイレが壁一枚で隣り合っているため使いたくない」というものであった。

④土地問題調査：

《概要》第1回キャンプから問題となっていた、土地の権利書を紛失してしまったという事態に対して、地方政府に交渉を村人が行っていると聞き、その進捗状況を確認した。

《目的》村人が第1回キャンプより、土地権利書を紛失している。そのことに至った経緯、それによって生じた不利益について調査するために実施した。

《成果》地方政府への土地権利書の再発行の申請を前回と同様行っているが、進捗は無いということだった。これにより被っている被害は今のところ無いということであるため、今後も進捗確認をし、適宜必要なサポートを行うことを考えている。



インド人学生とともに家屋の問題点を
書き出す



ロッキーさんと市場にておさんぽ

《絵本読み聞かせプロジェクトプロジェクト》

《概要》日本の絵本（ベンガル語訳を貼り付け済み）を村の子供たちのもとまで届け、日本人キャンパーがベンガル語で読み聞かせを行う。また読み聞かせ後の絵本は子供達へ譲渡する。

《目的》子供達に絵本の読み聞かせを通じて、文字の読み書きに親しんでもらうこと、また、村人との交流の機会を増やすことを目的とした。

《成果》当初は村人に絵本の読み方を教えてもらい、日本人キャンパーがそれを村人の前で披露し、さらに絵本の内容について話し、絵本についての絵を描く予定だったが、時間の関係上、読み方を教えてもらい一緒に読書をするに留まった。



村人と絵本を楽しむ様子



前回あげた絵本が大切に保管されていた

《エンタメプロジェクト》

《概要》日本人キャンパーがダンスとベンガル語の歌を、有志の村人が自分の得意なダンスを、共に活動を行ったインド人学生と日本人キャンパーとのダンスを披露するパーティーを開催する。

《目的》村に滞在させていただいたことの感謝の気持ちを村人に伝えるため実施した。また村外の人々に潜在的に存在しうる、差別意識がこのパーティーを通じた交流を機に少しでも払拭されることも目的の一つとしている。

《成果》村外から今までにはないほど多くの人に来てもらうことができた。よりいっそう村人と日本人キャンパーの仲も深まり、インド人学生と村人との間にも絆ができたのではないかと思う。



パーティーステージの飾り付け作成の様子



ステージの完成を喜ぶ村人